

(別紙様式3)

令和2年3月30日

## 研究開発完了報告書

住所 宮崎市橘通東1丁目9番10号

管理機関名 宮崎県教育委員会

代表者名 教育長 日隈 俊郎

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和元年5月30日（契約締結日）から令和2年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 宮崎県立宮崎南高等学校

学校長名 内田 信昭

類型 地域魅力化型

#### 3 研究開発名

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

#### 4 研究開発の概要

本研究では、地域に根差す人材の育成として身につけさせたい6つのスキルを「再認識力」、「情報収集力」、「問題発見力」、「分析力」、「共感力」、「表現実行力」とし、総合的な探究（学習）の時間と各教科科目において育成する。

##### 研究開発Ⅰ「地域の現状・魅力を知る地域力」の育成

地域のことを学ぶ「地域学Ⅰ～Ⅱ」において地域の魅力、地域資源を再認識し、「鵬イノベーションコンテスト」において地域の可能性や課題を考える力を養う教育プログラム

##### 研究開発Ⅱ「地域資源の新しい価値を見出す力(イノベーション力)」の育成

地域資源の新しい価値や課題解決の方法を地域課題研究から探究し、地域創生の使命感を持たせる教育プログラム

##### 研究開発Ⅲ「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成

課題研究を通して得られた成果を、地元の企業・大学・行政に提案し、自己実現の場とし

て捉える生徒を育てる研究プログラム

各教科における取組：授業において新学習指導要領の資質・能力の三つの柱（以下三つの柱）を本校が生徒に身につけさせたい6つのスキルをもとに育成する。

5 教育課程の特例の活用の有無 無

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会			○								○	
コンソーシアム会議		○							○			
MSEC 連絡協議会		○		○				○		○		

(2) 実績の説明

1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
宮崎市	市長 戸敷 正
宮崎県教育委員会	教育長 日隈 俊郎
宮崎市教育委員会	教育長 西田 幸一郎
宮崎大学	宮崎大学学長 池ノ上 克
宮崎空港ビル株式会社	代表取締役社長 高屋 靖夫
宮崎県男女共同参画センター	所長 山田 成美
宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	議長 中川 雄一

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年5月31日 第1回コンソーシアム会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容等説明と本年度の取組計画について協議し、1学年の課題研究について再構築していくことを決定。</li> <li>・外部機関との協力を広げていくための方針について協議し、コンソーシアムから外部機関への拡充を決定。</li> </ul>
令和元年8月23日 本校と宮崎大学との連携協議（第1回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員の高校生指導について協議し大学側が手引きを作成することを決定。</li> <li>・研究テーマの決定について協議し、一部研究においてはテーマを決定する段階から大学側が関わることを決定。</li> <li>・指導体制、研究発表会、運営体制など協議したが決定事項なし。次回への持越し。</li> </ul>
令和元年10月17日 本校と宮崎大学との連携協議（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度2学年課題研究の指導開始日について協議し、2学年4月開始に決定。</li> <li>・高校と大学の年間行事を共有し、早目の連携計画を作成することに決定。</li> <li>・研究テーマ決定について再検討し、高校において仮テーマ設定し、本テーマは大学</li> </ul>

	<p>教員も指導に参入したときに決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法について協議し研究発表会実施後、第2回コンソーシアム会議において再検討することを決定。</li> </ul>
<p>令和元年12月27日 第2回コンソーシアム会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の生徒アンケート結果について協議し、外部との連携拡充を決定。</li> <li>・研究開始時の生徒の状況と研究発表後を比較し意見をいただく。</li> </ul>
<p>令和2年2月7日 本校と宮崎大学との連携協議（第3回）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みを基に、来年度の連携について協議し、課題研究導入の際に独自ワークシート作成を決定。また、普通科、フロンティア科別々の指導マニュアルを作成することを決定。</li> </ul>

## 2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

### ①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

宮崎大学 教育学部教授 添田 佳伸 氏（都度依頼し謝礼支払い）

### ②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成31年4月	<p>教育委員会との打ち合わせ会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントの研究内容の確認</li> </ul>
<p>令和元年5月（第1回） カリキュラム・マネジメント検討会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントについて本校の目標、計画、方法、内容等についての説明</li> </ul>
<p>令和元年7月 実践研究1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事と大学教員による研究支援訪問を実施し、実践研究についての協議</li> </ul>
<p>令和元年7月（第2回） カリキュラム・マネジメント検討会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告</li> <li>・鵬DP評価表について（DP=DiplomaPolicy）</li> <li>・研究成果の検証方法についての研究協議</li> </ul>
<p>令和元年12月27日 実践研究2</p>	<p>第2学年生徒課題研究発表大会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課題研究発表会においてその成果から今後の課題について協議</li> </ul>

## 3) 地域協働学習実施支援員について

### ①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

企業組合ライオン堂 代表理事 相田 慎一郎 氏（都度依頼し来校）

### ②実施日程・実施内容

日程	内容
<p>平成31年4月18日 第1回協議会</p>	<p>キャリア教育に関する打合せ会に出席</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度研究内容の確認</li> <li>・令和元年度事業における活動計画について協議</li> <li>・鵬ドリカム講座協力講師について協議</li> </ul>
<p>令和元年5月8日 第2回協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鵬ドリカム講座協力講師内定者について協議</li> <li>・各学年探究活動における協力団体の紹介</li> </ul>
<p>令和元年6月6日 第3回協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鵬ドリカム講座決定事項の確認</li> <li>・各学年探究活動における協力団体依頼内容の確認</li> </ul>

## 4) 運営指導委員会について

### ①運営指導委員会の構成員

所 属	役職 氏名
宮崎国際大学	地域連携センター長・大学部長 矢野 健二
宮崎産業経営大学	高大連携センター長・法学部教授 徳地 慎二
宮崎市青少年育成連合会	事務局長 青山 桂子
有限会社嶋末塗装店	代表取締役 嶋末 武

## ②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月11日（第1回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施内容等説明と本年度の取組計画について説明。</li> <li>・探究学習と学力向上の関係性について協議し、評価基準を一定にすることに決定。</li> <li>・生徒の活動を地域に広く知ってもらうためにも生徒ボランティアの充実を図ることを決定</li> </ul>
令和元年12月27日 第2学年生徒課題 研究発表大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の発表を受けて、学校と地域との関わりについてさらに広がりが必要な分野の協議、今後も継続の必要な分野の協議を実施。</li> <li>・評価の在り方について今後改善が必要な点を協議。</li> </ul>
令和2年2月10日（第2回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発Ⅰにおける生徒アンケート結果より改善点を協議</li> <li>・研究開発Ⅰについてはおおむね良好。ただしアンケート結果より、生徒のキャリアへの意識探究活動の関係性の希薄が見られた。来年度は探究活動を進路指導とつなげる取り組みを実施することに決定。</li> <li>・研究開発Ⅰにおいて企業への魅力喚起の伸びが見られなかった。来年度は地域学における企業の取り組み内容の取り扱いを強化することと、鵬イノベーションコンテストにおいてテーマ設定をより企業からの視点を強くしたテーマに設定していくことを決定。</li> <li>・研究開発Ⅱにおいて、研究開発Ⅰのような生徒の変容が見られなかった。このことは研究開発Ⅰを実施していないから研究開発Ⅱのプログラム改善が必要なのか、理由が不透明のため来年度の結果より検討することを決定。</li> </ul>

## 5) 主体的な取組について

- 継続的な取組を行うため、加配（1名）を行った
- 地域課題解決のための地域・企業・高等教育機関との連携推進の取組を支援するための費用の補助をした
- 指定校において実施された成果報告会（第1学年：鵬イノベーションコンテスト、第2学年：生徒課題研究発表会）では、当日の運営や生徒への指導助言等においてコンソーシアム組織員による全面的な支援を行った
- 地域協働事業をはじめとするSSHやSGHの研究開発を通じて、蓄積された探究型学習のノウハウを県内の高校へ普及すると同時にSDGsの実現を目指す意識の醸成のための組織「みやざきSDGs教育コンソーシアム（通称：MSEC）」を設置した
- MSECでは4回の協議会を実施し、研修会も行った
- 事業終了後の自走を見据え令和元年度からの県新規事業「県立学校を核としたまち・ひと・しごと創生推進事業」の取組と連動させて、継続できるよう計画した。
- 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況は下記のとおり  
 国立大学法人宮崎大学（令和元年6月5日 締結）  
 宮崎市役所（令和元年7月16日 締結）

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目		各月ごとの実施回数 ( ) は予定											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究 開 発 I	地域学Ⅰ		2回	3回	1回	1回							
	地域学Ⅱ			1回									
	鵬イノベーションコンテスト							3回	5回	1回	3回	1回	1回
	進路ガイダンス								1回				
	次年度課題研究計画											1回	(1回)
研究 開 発 II	地域課題研究	1回	3回	3回	1回	1回	2回	4回	1回				
	中間発表							1回					
	いらっしやいみやさき									1回			
	地域課題研究発表会									1回			
	プレゼン資料作成								2回	2回			
	論文作成										1回		
そ の 他 活 動	生徒地域探究推進部会		1回	2回	10回	8回		4回	1回	2回			
	地域探究推進委員会	2回	2回	2回	1回	1回	1回	1回	4回	1回	1回	2回	(1回)
	地域課題研究職員研修	3回	2回	1回	3回	2回		1回		2回			
	コンソーシアム企画運営委員会		1回							1回			(1回)
	運営指導委員会			1回								1回	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

○本年度は研究開発Ⅰ，Ⅱの内容について

学 年	研 究 開 発	題 目	実 施 内 容
1	開 発 I	地域学Ⅰ	宮崎県の高等教育機関が取り組んでいるCOC+を利用して地域の魅力、現状を学ばせる。
		地域学Ⅱ	宮崎の企業・行政の活躍を本校同窓会(鵬同窓会)を通じて知る。
		鵬イノベーションコンテスト	地域の企業、行政、団体からのいただいたテーマを基に課題解決に取り組む。
		進路ガイダンス	各大学の学部の話を聞き、自分が学ぶべき分野を知る。
		次年度計画	今までに学んだことを基に次年度からどのような課題研究に取り組むか計画を立てる。
2	開 発 II	地域課題研究(前半)	地域課題研究に、コンソーシアムよりアドバイスを受けながら取り組む。
		中間発表	有識者より意見を求め、課題内容の軌道修正を行う。
		地域課題研究(後半)	中間発表を経て、研究内容を深める。
		いらっしやいみやさき	国内研修、海外研修にて宮崎市の観光を宣伝する。
		プレゼン資料作成	職員、生徒研修会を実施後プレゼンテーション、ポスター制作等する。
		研究発表会	ポスターセッションによる研究成果の発表を行う。
1,2	そ の 他 活 動	生徒地域探究推進部会	生徒の希望者から組織され、地域魅力化型研究開発の主體的・自治的な活動を推進する。
		地域探究推進委員会	地域魅力化型研究開発の総務として各教科、各部会に企画を提案し実施に向けてコンソーシアムとの協議、連携を図る。
		地域課題研究職員研修	先進校講話1回。地域学についての研修3回。鵬イノベーションコンテストの研修5回。鵬DP

動		評価についての研修3回。地域課題研究の研修（ポスター作製含む）2回。
	コンソーシアム企画運営委員会	6 管理機関の取組・支援実績（1）コンソーシアムについて参照
	運営指導委員会	6 管理機関の取組・支援実績（4）運営指導委員会について参照

○本年度普通科探求活動学習指導概要

	月	日	1 学年(研究開発 I)			
			内容	主幹	指導	
第 1 学期	4	19	進路学習①（1年間の目標設定）	学年	担任	
	5	10	探究活動全体説明	進路	学年	
		24	地域学①	進路	副担	
		31	地域学②	進路	副担	
	6	14	地域学③	進路	副担	
		21	地域学④	進路	副担	
		28	地域学⑤	進路	副担	
7	5	地域学⑥	進路	副担		
第 2 学期	8	30	地域学⑦	進路	副担	
	9	6	鹏飞バージョンコンテスト概要説明	学年	担副	
		20	鹏飞バージョンコンテスト① グループ分け、課題探求	進路	担副	
		27	鹏飞バージョンコンテスト② 目的設定	進路	担副	
	10	4	鹏飞バージョンコンテスト③ 提案決定	進路	担副	
		11	進路ガイダンス	進路	担副	
		25	鹏飞バージョンコンテスト④ 中間発表準備	進路	担副	
	11	30	鹏飞バージョンコンテスト⑤ 中間発表	進路	担副	
		22	鹏飞バージョンコンテスト⑥ 改善点に向けて話し合い	進路	担副	
		6	鹏飞バージョンコンテスト⑦ 発表練習	進路	担副	
	12	13	鹏飞バージョンコンテストまとめ	進路	担副	
		20	探求活動まとめ(ポートフォリオ確認)	進路	担任	
	第 3 学期	10		論文作成講演会	図書	副担
		1	24	論文作成指導	図書	副担
31			鹏飞バージョンコンテスト活動論文まとめ①	進路	担副	
2		7	鹏飞バージョンコンテスト活動論文まとめ②	進路	担副	
		21	課題研究に向けて①	進路	担副	
26		課題研究に向けて②	進路	担副		
3	13	次年度課題研究アンケート	進路	担副		

	月	日	2 学年(研究開発 II)		
			内容	主幹	指導
第 1 学期	4	18	進路学習①（1年間の目標設定）	学年	担任
		25	地域課題研究全体説明	進路	学年
	5	9	地域課題研究方法説明	進路	担任
		16	課題研究研究グループ分けテーマ設定①	進路	担副
		23	課題研究研究テーマ設定②	進路	担副
	6	6	課題研究計画	進路	担副
		13	課題研究①	進路	担副
	7	20	課題研究②	進路	担副
		4	課題研究③	進路	担副
	第 2 学期	8	29	中間発表準備①	進路
9		5	中間発表準備②	進路	担副
		19	中間発表	進路	担副
10		26	課題研究改善点の考案	進路	担副
		11	進路ガイダンス	進路	学年
		17	課題研究④	進路	担副
11		24	課題研究⑤	進路	担副
		31	課題研究⑥	進路	担副
		7	課題研究⑦	進路	担副
		14	課題研究⑧	進路	担副
12		28	プレゼンテーションまたはポスター作成・まとめ講和	進路	担副
	12	プレゼンテーションまたはポスター作成・発表練習	進路	担副	
	19	プレゼンテーションまたはポスター作成・発表練習	進路	担副	
	28	プレゼンテーションまたはポスター作成・まとめ講和	進路	担副	
第 3 学期	1	16	論文作成講演会	図書	副担
		30	論文作成指導	図書	副担
	2	13	課題研究論文作成	進路	担副
	3	12	課題研究論文作成	進路	担副
		18	1年のまとめ	学年	担任

○本年度探求基礎情報実施内容

	月	学習単元・項目		月		
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・情報とは</li> <li>・クロスチェック</li> <li>・アナログとデジタル・情報の量</li> <li>・文字・音・画像・動画のデジタル化</li> <li>・デジタルデータの圧縮</li> <li>・デジタルデータの特徴</li> <li>・情報社会が人に及ぼす影響</li> <li>・ネットトラブル・炎上</li> <li>・インターネットを利用したコミュニケーション</li> <li>・パスワード</li> <li>・コンピュータウイルス</li> <li>・情報の流し</li> <li>・個人情報</li> <li>・産業財産権</li> <li>・著作権</li> <li>・情報モラルセキュリティコンクール標語作成</li> <li>・実技テスト（タイピング）・筆記テスト</li> </ul>	2 学 期	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word 1 Word の画面構成</li> </ul>	
	5			9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word 2 基礎的な操作方法</li> <li>・Word 3 定型文（ビジネス文書）</li> <li>・Word 4 視覚的な情報伝達（画像の挿入）</li> </ul>	
	6			10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト（Word）</li> <li>・鵬イノベーションコンテストに向けた調査研究、レポート作成</li> </ul>	
	7			11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PowerPoint の基礎</li> <li>・分かりやすいスライド（カラーバリエーション・伝わるデザイン）</li> <li>・鵬イノベーションコンテスト発表スライド・原稿作成</li> </ul>	
				12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記テスト（ワード・PowerPoint）</li> </ul>	
				1	3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Excel 1（計算式・簡単な関数）</li> <li>・Excel 2（並べ替え・棒グラフ・折れ線グラフ）</li> </ul>
				2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Excel 3（絶対参照・円グラフ）</li> <li>・Excel 4（IF・ROUND・絶対参照）</li> <li>・Excel 5（データ分析）</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Excel 9（相関係数・散布図・レーダーチャート）</li> <li>・実技テスト（Excel）</li> <li>・シミュレーション</li> <li>・プログラミング</li> </ul>				

○本年度地域課題研究実施一覧 添付資料①参照

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

各学年学科における単位数を記載

	1 学年		2 学年	
	普通科	フロンティア科	普通科	フロンティア科
総合的な探究（学習）の時間	1	2	1	3
探究基礎情報	2	2	0	0

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

6つのスキルを基にした共通表評価基準の作成 添付資料②-1 参照

④類型毎の趣旨に応じた取組について 特になし

⑤成果の普及方法・実績について

○成果の普及方法について

- ・学校 HP とは別に「宮崎南高等学校 地域連携協定事業」の HP を開設
- ・1 学年「鵬イノベーションコンテスト」、2 学年「課題研究発表大会」の発表案内

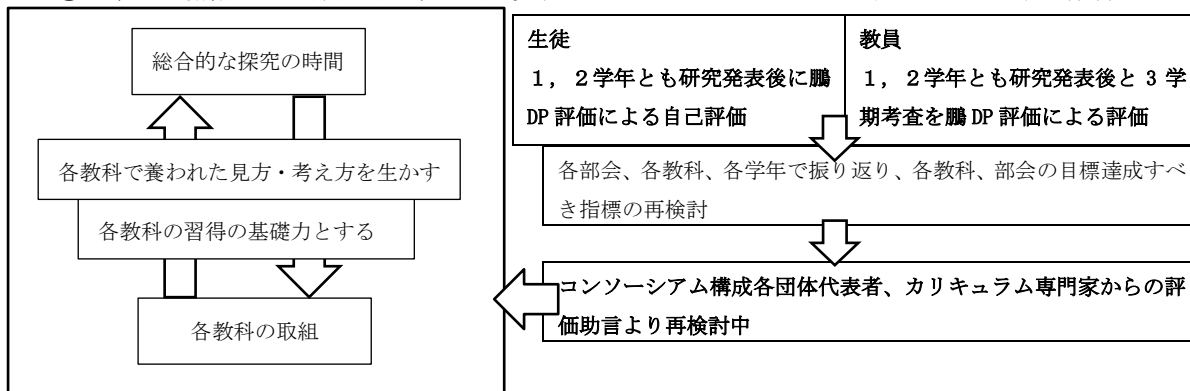
○成果の実績について（地域との連携事業について記載）

活動日程	内容
令和元年 6 月 13 日	月見ヶ丘地区、吉永地区との防災の取組について協議
令和元年 11 月 3 日	みやざき健康ふくしまつりにおいて本校生徒考案の健康体操実施
令和元年 11 月 23 日	生徒主催の「鵬子ども食堂」実施
令和元年 12 月 10 日	鵬イノベーションコンテストにおいて 9 団体と地域テーマについて探究活動を実施 添付資料②-2 参照
令和元年 12 月 25 日	本県特産へべスの機能性研究し、データを JA 宮崎経済連にフィードバック
令和元年 12 月 27 日	2 学年課題研究発表大会において地域課題に対する探究活動を実施

令和 2 年 2 月 15 日 (販売期間～3 月 15 日)	宮崎県庁福祉保健部健康増進課のご指導の下、宮崎県が推進する「野菜を積極的に食べる活動」＝「ベジ活」をテーマに本校生徒が考案したベジ活メニュー「野菜ごろごろ旨辛ポトフ」を、ベジ活応援店である A コープオランヴェルにて試食販売実施
---------------------------------------	--

### (3) 研究開発の実施体制について

#### ①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制



#### ②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

	地域探究推進委員（13人）	全職員
役割	①カリキュラムの開発の協議 ②地域に根差す人材育成としての企画を提案し各部会、各教科に実行を依頼 ③本研究の企画、改善をコンソーシアム構成各団体代表者と協議 ④カリキュラム開発のために地域創生研究先進校の視察や有識者による助言をもらい全職員にノウハウを普及	①地域探究推進委員からの企画を部会、教科、学年で協議、実行可能案を作成し実行する ②地域探究推進部の提案についてそれぞれの視点から評価改善を提案
支援	・カリキュラム開発専門家より開発のアドバイス ・加配教員による業務補助 ・地域探究推進部増設のため各校務分掌を再編し、校内体制を整える。	・カリキュラム開発専門家によるカリキュラム開発の研修の実施 ・それぞれの企画に対する成果を職員会議で検討し、多方面から生徒指導ができる体制を確立 ・放課後30分の指導時間を確保

#### ③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進捗管理、計画・方法	実行時期
改善方策の執行管理システムとして、PDCAサイクルに基づく進捗管理の仕組みを位置づけ、持続的なサイクルを通じた成果の追究を行う。また、CHECK（評価）については、「表1 本校が身に付けさせたい6つのスキル」と研究開発中の教育指標を用い、各研究開発の題目において達成すべき目標を数値化することで達成の確認を行う。	各教科会・各部会で週に1回実施する。 また、職員研修会で学期1回実施する。

#### ④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について コンソーシアム会議においてカリキュラム開発においても協議。

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

### 8-1 研究開発 I について

#### (1) 郷土に対するアンケート結果・考察について

〈結果〉添付資料④参照



〈考察〉

- ① 設問1のような郷土に関する知識は研究開発Ⅰのプログラムを進めていくうちに良好な結果となった。
- ② 県内への就職希望が減少傾向となった。しかしながら、生徒の意見の中に、宮崎は外から支える力が必要という意見があり、必ずしも郷土に対する興味の希薄から県外就職を希望しているとは言いがたい。
- ③ 企業に関しては興味ある企業は増加したが就職したいという魅力まで感じる生徒増加には至らなかった。

〈来年度改善〉

- ① 地域学Ⅰでの企業分野内容の充実を図る。
- ② 鵬イノベーションコンテストにおけるテーマの提案についてより企業からの視点を強くしたものにしていく。

(2) 自己分析アンケート結果・考察について

〈結果〉添付資料⑤参照

〈考察〉

- ① 設問4, 5より研究開発Ⅰによって地域課題解決への意識向上が図られたと考えられる。
- ② 設問10, 15より本校が目標としている複眼的視点の醸成ができていると考えられる。
- ③ 設問21より6つのスキルの表現実行力の力が養われていることがわかる。
- ④ 設問9より探究学習とキャリア教育がリンクしていないのではないかと考えられる。

〈来年度改善〉

- ① 進路指導部と協議し、探究学習と生徒のキャリア意識がリンクするよう進路指導のあり方を改善する。

(3) 1学年「鵬イノベーションコンテスト」研究発表会後の鵬DP評価（添付資料③-1）について

評価は4段階（S:4,A:3,B:2,C:1）で評価し、数値が高いほど高評価とする。

〈結果〉

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
生徒(自己評価)	3.2	2.9	3.2	3.1	3.2	3.1
審査員(他者評価)	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0

〈考察〉

- ① 上記の結果より、どの項目においても自己評価がほぼ1段階高い結果となっている。
- ② 他者から求められている基準と生徒自身が求める基準との間に大きく差があることがわかる。

〈来年度改善〉

他校の生徒と交流する機会を導入し、さらにレベルの高い他校の成果物などを提示することにより生徒自身が求める基準のレベルアップを図る。

8-2 研究開発Ⅱについて

(1) 郷土に対するアンケート結果・考察について

〈結果〉添付資料⑥参照

〈考察〉

- ① 設問1のような郷土に関する知識は研究開発Ⅱのプログラムを進めても伸びは見られなかった。第2学年は研究開発Ⅰを実施していないからではないかと考えられる。研究開発Ⅰと研究開発Ⅱの相関関係については来年度の結果からの考察となる。また、1回目の調査で郷土に関する知識を「知っている」と答えた生徒が2回目で「知らない」と答えた回答があった。このことについて該当生徒の一部に意見を聞いたところ、調べて行くにつれて自分の知っていることが「誇れる」ことなのか疑問に思い「知らない」と回答したという意見が見られた。この意見も郷土を深く知った結果ではないかと考える。
- ② 県内への就職希望も1学年と同じ減少傾向となった。しかしながら、設問15の郷土への貢献については伸びが見られた。つまり、県内に留まる気持ちは育成できなかったが、郷土愛は醸成されたと考えられる。設問13の回答から地域、企業の魅力を感じてもらうためにどのような改善が必要か検討すべきである。

〈来年度改善〉

- ① 研究開発Ⅱにおいて生徒に地元企業の魅力を知ってもらうために地元企業との連携がさらに必要である。よって、本校同窓会に依頼して連携先の開拓を行う。
- ② 宮崎市役所にアンケート結果をフィードバック。企業から高校生へのアプローチを依頼する。

(2) 自己分析アンケート結果・考察について

〈結果〉添付資料⑦について

〈考察〉

- ① 全体的に1学年と同じようにほとんどの項目で実施後の伸びが見られた。
- ② 設問7において1学年が最終的に「できる」「まあまあできる」「ややできる」と答えた割合が71.4%のところ2学年は85%であった。このことは課題研究を実施した効果といえる。
- ③ 設問9においても1学年は伸びが見られなかったが2学年は見られた。このことより課題研究を実施していくことにより、自分の進路をより深く考えていけると考えられる。

〈来年度改善〉

自己分析アンケートからの改善点は特になし。

(3) 2学年課題研究発表大会後の鵬DP評価（添付資料③-2）について

評価は4段階（S:4,A:3,B:2,C:1）で評価し、数値が高いほど高評価とする。

〈結果〉

	再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
生徒(自己評価)	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1
審査員(他者評価)	2.3	2.5	2.3	2.3	2.5	2.4

〈考察〉

2学年も1学年と同じように自己評価が高い結果となった。

〈来年度改善〉

新2学年においても1学年と同じように他校の生徒との交流する機会を導入し、さらにレベルの高い他校の成果物などを提示することにより生徒自身が求める基準のレベルアップを図るべきと考える。

9 次年度以降の課題及び改善点

※ 「8 目標の進捗状況、成果、評価」と重複する内容は省く

学年	研究開発	題目	課題	改善点
1	研究開発 I	地域学 I	1分野1時間の授業では広く浅い内容となり、生徒の興味に即してない場面も見られた。	生徒が主体的に学ぶ場として、教師からの教授ではなく、生徒が授業を展開するように改善する。
		地域学 II	本年度通りの実施を計画中。	
		鵬イノベーションコンテスト	学年に対する連絡体制に課題があったため、担副担任が主体的に指導できなかった。	組織を編成する際に、各学年の担任を必ず含み、学年会への連絡が滞りなく実施されるように改善する。
		進路がイブンス	事前指導と事後指導の時間確保が課題であった。	総合的な探究の時間の計画を再編成し時間確保を実施する。
		次年度計画	本年度通りの実施を計画中。	
2	研究開発 II	地域課題研究	夏季休暇中の計画を立てさせる指導をさせておらず、外部との繋がりが希薄な班があった。	夏季休暇前に研究計画に対して有識者を含めたうえで各班報告会を開き、夏季休暇中にフィールドワークを踏まえた課題研究を実施する。
		中間発表	本年度通りの実施を計画中。研究発表の時期が早くなるため中間発表の早期実施を予定。	
		いらしあひやぶさき	国内では公的に宣伝する場所がなく実施できなかった。	都内研修において都会で活かせる地方の価値を模索できる研修を検討中。
		プレゼン資料作成	PC等の機材不足のため、時間内に各班が実行することができなかった。	改善するにはPC等の購入が必要。その予算の確保は1学校の課題とは言い難い。
		研究発表会	①審査方法について課題があった。  ②全員が同じ時間に発表をするので互いの発表を聞く時間を設けることができなかった。	①6つのスキルを基にした審査基準を設け審査したが審査員より審査が難しいとお声をいただいた。審査項目を簡略化する改善が必要。 ②1回の発表者の人数を1～2人とし、残りは自分の発表の順番まで他の班の発表を見るように改善する。
論文作成	論文指導の時間確保ができなかった。	本年度の優秀な論文を模範として来年度は指導の時間を設けるように改善する。		

[全体を通しての課題]

- ① 県内企業へ魅力を感じてもらい取り組みが必要と考える。コンソーシアム団体からの更なる協力が必要と考える。
- ② 運営指導委員会において生徒の考える企業と県内企業との間にずれがあるのではというご指摘をいただいた。企業に対するイメージの調査が必要と考える。
- ③ 1学年「鵬イノベーションコンテスト」研究発表会後の鵬 DP 評価について生徒が自分自身に求める基準を上げていくために、更にレベルの高い成果物の視聴として宮崎大学が実施しているビジネスコンテスト参観が考えられる。今年度も起業講座の一環として主に2学年が多数参加したが、1学年次より参加を促す必要があると考える。
- ④ カリキュラム開発専門家との連携強化が必要。研究開発 I, IIとも研究発表だけで

なく、中間発表から参加いただき、研究開発のためのカリキュラム改善に助言をいただく必要があると考える。

- ⑤ PC、タブレット、ネット環境などのハード面の不足が1番の課題と言える。Society5.0の社会を生きていく子どもたちに対し、ほとんどの学校が Society5.0 に対応できるハード面の設備が整っていない。特に、地方で生きていくためにはネット環境の整備、IT技術の使いこなしができていない限り難しい課題と言える。この事業を広く普及していくためにも指定した学校に対してハード面の強化から始めるべきと考える。

**【担当者】**

担当課	高校教育課	TEL	0985-26-7033
氏名	松田 太郎	FAX	0985-26-0721
職名	指導主事	e-mail	matsuda-taro@pref.miyazaki.lg.jp